

I 概 要

桜井市議会文教厚生委員会所属議員行政視察

- 1 期 日 令和 6 年 10 月 9 日（水）～10 日（木）
- 2 派遣委員 (委員長) 大園 光昭 (副委員長) 島岡 誠
(委 員) 札辻 輝巳 (委 員) 西 忠吉
(委 員) 大西 亘 (委 員) 鍛冶 結花
議 長 岡田 光司
以上 7 名
- 3 視 察 地 石川県かほく市立宇ノ気中学校
- 4 視察目的 社会体育施設と部活動地域移行について調査する。



本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行いました。

Ⅱ 研修内容のまとめ

社会体育施設と部活動地域移行について（石川県かほく市）

かほく市立宇ノ気中学校において、事業内容等について説明を受けた後、質疑応答を行う。

●かほく市の概要

かほく市は石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の北約20キロメートルに位置している。面積64.44平方キロメートル、人口36,087人（令和6年8月末現在）の都市である。平成16年3月1日に、石川県内で平成の大合併第一号として、旧河北郡5町のうち高松町、七塚町、宇ノ気町の3町が合併し誕生しており、海とみどりに囲まれたまちとなっている。

【社会体育施設】

●事業内容

かほく市立宇ノ気体育館は、宇ノ気中学校敷地内にある社会体育施設であり、中学校の体育館と市民体育館の2つの機能を持つ複合化施設となっている。

合併前の宇ノ気町として構想から実施設計まで実施されていた。

当時の宇ノ気町には、バスケットボールコート2面を有する体育館がなかったこと、また、当時立ち上がって間もない総合型地域スポーツクラブの活動拠点がなかったことから中学校改築計画において体育施設との複合化を計画するに至ったのである。

工事費の財源を、合併を控えていたこともあり、中学校と体育館を別の枠組みとすることで、国の補助金や、合併特例債等を充てるなど有効な財源活動を行った。

学校施設の管理は、学校で、体育施設については、指定管理者制度を導入し、総合型地域スポーツクラブNPO法人クラブパレットに委託している。

また、総合型地域スポーツクラブの拠点施設としても機能している。

クラブパレットは施設管理だけでなく、スタッフが、学校のゲストティーチャーや部活動サポーターとして学校活動において参加されている。

一般市民向けに色々な教室を開催しており、地域住民が参加することで学校と地域の交流促進や地域に開かれた学校づくりの一助となっている。

●主な質疑応答

問．施設建設の予算構成はどのようなになっているのか。

答．学校施設（校舎）工事費：2,037百万

公立学校施設整備費国庫補助金と安全・安心な学校づくり交付金を活用

体育施設（体育館）工事費：1,145百万

市単独事業とし整備（合併特例債を充当）

合併特例債は事業費の95%を充当可。うち70%が国の負担になり、他の国庫支出金よりも補助率が高く、財政的に有利である。

問. 社会体育施設計画検討中、市民の意見等はどのように聞かれたのか。また、どのように反映されたのか。

答. 複合化については議会同意うえ、行政主導で決定し、住民参画及び有識者による検討は特に行なわず、施設の配置、平面計画等に関しては、学校、地域、保護者等の有識者による検討委員会において協議した。

問. 体育館は、中学校が優先的に使用できるのか。

答. 日常的に中学校の教育活動（授業や集会、部活動など）で優先的に使用し、夜間等を社会体育施設として利用している。

●所感

公共施設の有効活用や学校と地域の交流促進の取り組み、成果を得たことは大いに評価すべきところである。本市がもつ公共施設のあり方の政策を進めいく上でも非常に参考となるものであり、意義のある視察となった。

【部活動地域移行】

●事業内容

近年では、子どもの減少や働き方改革により部活動を維持していくことがむずかしくなってきた。

かほく市には高松中学校、河北台中学校、宇ノ気中学校と3校の中学校があり、令和7年度末までの改革推進期間中に、全ての種目を「地域クラブ活動」へ移行させることを目指し、段階的に「地域クラブ」へ移行している。

令和4年度から部活動地域移行推進本部を設置し、児童や保護者、中学校教職員等へのアンケート調査を実施して現状や地域移行について調査し、学校関係者や各競技協会役員・地域指導者との意見交換や協議を積み重ねながら連携をはかり、休日の部活動は、令和6年度からソフトテニス、バスケットボール、卓球の「地域クラブ活動」、軟式野球の「合同部活動」がはじまっております。また、その他の各競技団体等とも協議をしており、令和7年度から環境が整った部活動からできる範囲で取り組む予定とのことであった。

今後も、たくさんの方に関わっていただきながら、連携を取り進めていくとのことであった。

●主な質疑応答

問. 指導者の報酬はどこが、どの様に支払われているのか。

答. 謝金（1,600円/時）は市から指導者へ口座に振り込んでいる。

問. 中学校から初めてスポーツにチャレンジする初心者が競技を始めやすい環境になっているのか。

答. 地域の指導者には、部活動の一環として活動するように指導している。

問. 地域移行して良かった点、また新たな課題等があれば教えてほしい。

答. 教員の業務（心身）の負担軽減にもなり、生徒も地域の指導者と関わることでいろんな刺激がもらえる。

課題としては、指導者の確保や指導者の指導法である。

問. 生徒や保護者の心配ごと等はどのように対応されたのか。

答. 地域移行部活動保護者説明会や、新入生保護者説明会を開催している。

●所感

地域関係者や保護者の協力、理解が大いに求められる事業である。部活動の地域移行に関する課題解決を完璧にではなくできる範囲で行いながら進めていくという丁寧な対応は非常に参考になった。

本市での導入を進めていく上で意義のある視察となった。

Ⅲ 視察の様子

